

観音寺中学校 道徳通信 10月号

ようやく朝夕が涼しくなり、少し秋らしくなってきました。今、学校では、15日に行われる合唱コンクールに向けて練習が行われており、校内のあちこちから歌声が響いています。合唱は決して一人ではできません。クラスの仲間と、心と声を合わせて初めてひとつの合唱ができあがります。このクラスで、このメンバーでの合唱は一生に一回。だからこそ、一人一人が本気で頑張って、それぞれの心に残る合唱コンクールにしましょう。



今回は、3年生の道徳の授業内容を紹介します。

『きみは赤ちゃん』より 【生命の尊さ】

母となった筆者は、生まれたばかりの息子をいとおしく思うとともに、赤ちゃんという存在のあまりのもろさや頼りなさに、感嘆と畏怖ともいえるような思いを抱く。息子を胸に抱きながら「わたしはきみに会うために生まれてきたんじゃないかと思うくらいに、きみに会えて本当にうれしい」という思いがわき上がってくるのだった。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

命というものは、目では見えないし、正直よく分からないものだけど、尊いものだし、すごく大切なものだと思った。赤ちゃんはお母さんお父さんを一瞬で変えるものすごい力をもっているなと思った。生んでもらったことや、育ててもらっていることに感謝しながら生きようと感じた。

改めてお母さんはとても偉大なことが分かりました。人は自分の力だけで生きられているわけではないと思うので、身近な人に感謝を伝えていきたいと思いました。どんな人の命も大切にして、これからの日常も大切にしていきたいです。

当たり前のように、親が育ててくれているけれど、私が生まれた時、母さんと父さんはこんな風に私を思ってくれていたんだと分かりました。子どもが生まれることが、「自分が生きる理由」の一つに追加されていて、「自分の人生まで巻き込んでくるなんて、大げさだろう」と思っていたけれど、この授業を受けて、命は奇跡的だし、とても大きな存在なんだと思いました。今はまだ「自分はこのために生まれてきた、何があっても守りたい」という存在はないし、その気持ちも分からないけれど、親は私や兄弟をそういう存在として見てくれているので、これからは感謝して過ごしたいです。

自分の子どもをいとおしく思う気持ちは本当にすてきな気持ちだと思います。私は子どもがいないので、今は親や大人の気持ちは分かりませんが、いつかはその気持ちを味わってみたいと思いました。作者の命に対する不思議な気持ちについて、私は結構共感しています。人それぞれ生きる環境が違うのでいろいろな思いがあって良いんだと改めて思いました。私は家族が大好きです。これからたくさんの人に出会って、好きな人、子どもができると思うので、たくさんのお好きをもっと作ってみたいです。

返信をありがとうございます。～道徳通信9月号の返信より～

- ・ 見えない親切が自然にできる様な人に育って欲しい。
- ・ 「見えない親切」には、真の優しさが伝わり、とても心温まる行いだと思います。自分のことより相手のことを最優先に考え、さりげない思いやり行動が様々な場面で見られると素敵だと思いました。「目配り、気配り、心配り」を常に意識した行いを心掛けたいと思いました。
- ・ 良かったです。
- ・ 見えない親切を認識するのは難しいかもしれないが、自分がまずは実践することで、見えてくるものもあるかもしれないと思いました。まずは小さいことからでも親切なことをするのも大切だと思いました。
- ・ 身内でもおばあちゃんの手をひいたり寄り添ったり優しくできているので外でも遠慮せずに困ってる人に優しくできたらと思います。
- ・ いくつになっても優しさと気づきを大切にしてほしいと思います。日頃から続けていくことが当たり前になるように思います。当たり前に無意識にできるとかっこいいですね。わたし自身もそうでありたいです。
- ・ 見えない親切、普段気づかないことが多いと思いますが、こうして皆んなで考える機会があることに感謝します。娘にも、見えない親切ができるような人になって欲しいです。
- ・ 見えない親切、かどうか分かりませんが、危険物の時に、回収されないまま、何日もほったからしのままなので、分別して処理したりしてましたが、専門の所に出すとお金がかかるものを出してたので、自治会長さんに相談したら、「さらしなさい」と言われてしたけど、別の親切な方が片付けでくれたのかもしれないので、すっきりしませんでした。

ご返信、ありがとうございました

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。